



わ

わたしだって 動きたい



大事な赤ちゃんですから、「落としたらどうしよう」と不安になるのは当然です。だからどうしても、「落ちない対策」がある育児グッズを選ぶことになるでしょう。

両肩から出ている2本のベルトを、赤ちゃんの股の間を通したベルトとお腹あたりで「カチャツ」と留める育児用品は、さて、いくつあるのでしょうか。

赤ちゃんだけがそこに入っている場合もあれば、だっこひものようにママやパパとくっついているケースもあります。

一つ一つの育児用品の使用時間は短くても、一日の合計ではかなり多くなり、赤ちゃんが固定されている時間は年々延びていると感じます。体勢を変えたくて

も、音が聞こえた方を向きたくても、何か触ってみたくても、自分で歩いてみたくても、その思いが叶わない…、そんな時間ばかりでは辛いですね。

赤ちゃんは自分の目で見、自分で動き、手で触れ、口に入れ、学びながら成長します。その時間は、とても貴重ですが、安全のために必要なチャイルドシート、ベビーカーやだっこひもでの移動では、赤ちゃんの動きに制限がかかります。そんな時間を減らすことを意識し、移動の後には、赤ちゃんのすやかな発達のために、赤ちゃんが自由に身体を動かせる空間や時間を取るように心がけたいですね。